

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
札幌工科専門学校	学事第1148号指令 昭和55年11月5日	三上 敬司	〒007-0895 北海道札幌市東区中沼西5条1丁目8-7 (電話) 011-791-5050			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人常松学園	昭和55年11月5日	常松 哲	〒007-0895 北海道札幌市東区中沼西5条1丁目8-7 (電話) 011-791-5050			
目 的	<p>造園緑地科は、昭和63年に造園技術者の養成を目的として造園工学科として設立された。</p> <p>造園緑地科の内容は、造園設計、造園材料、造園施工・管理や土木、測量、園芸など多岐にわたっている。特に、造園実習(2・3級造園技能士)や園芸実習(2・3級園芸装飾技能士)では、技術・技能の習得のために造園・園芸に関係する多様な経験が必要とされるため、より実践的な教育が求められる。</p> <p>近年、少子化により18歳人口が減少し、技術者不足が業界の大きな問題となっている。現在、次世代を担う若い技術者の育成が急務となっている。</p> <p>そこで本学科では、緑地分野を目指す学生に、企業や業界と連携し、より一層実践的な技術・技能を習得させ、社会から求められる技術に対応できる緑地技術者の養成を行う。</p> <p>一方、職業実践専門課程にふさわしい教育を行うため、企業関係者、有識者などで構成する委員会を設置し、授業内容・方法の見直し、改善等を行い業界の要望にこたえる人材育成を行う。</p>					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	専門	造園緑地科	2年(昼)	107単位 (3,210単位時間)	平成6年文部省 告示第84号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,500単位時間	210単位時間	180単位時間	1,320単位時間	0単位時間
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		13人	4人	4人	8人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験の成績とその期間の学習状況を総合的に判断する	
長期休み	■学年始め：4月1日～4月5日 ■夏 季：1年生8月9日～8月20日 ■夏 季：1年9月2～5日, 9月8～10日 ■夏 季：2年生8月2～6日, 8月9～17日 ■夏 季：1年9月2～7日, 9月9～10日 ■冬 季：1年生12月22日～1月14日 ■夏 季：2年生12月22日～1月14日 ■学 年 末：1年生3月1日～3月31日 ■学 年 末：2年生2月7日～3月31日			卒業・進級条件	履修すべき全科目に合格 履修期間の出席が規定以上 学費を完納	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任面談、補習授業等			課外活動	■課外活動の種類 無し ■サークル活動(有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 建設業界、林業界、公務員 ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 100%	主な資格・検定	樹木医補、造園技能士、 園芸装飾技能士、 造園施工管理技士、他
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 10.0% 平成28年4月 1日在学者 20名（平成28年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 18名（平成29年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 学力不振、進路変更 ■中退防止のための取組 担任面談による指導		
ホームページ	URL: http://www.sapporo-kouka.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

企業から委員が参画する「教育課程編成委員会」を組織し、企業との密接な関係体制確保の上、実践的教育を施す専門学校としてふさわしい授業を行う。就職先の業界における人材や専門性に関する動向に積極的に対応し学習環境の整備や教材・教員配置の工夫、授業内容改善に取り組む。また、実習や資格取得などを通じてキャリア教育の充実に努め即戦力となる人材を育成に努める。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
常松 哲	札幌工科専門学校
三上 敬司	札幌工科専門学校
大坂 道明	札幌工科専門学校
阿部 峰雄	札幌工科専門学校
岩瀬 聡	札幌工科専門学校
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長
浦波 幸雄	株式会社イーエス総合研究所 執行役員副社長
小林 勝美	緑化デザイン株式会社 代表取締役社長

(開催日時)

第1回 平成29年3月18日 11:00～12:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業から派遣された業界が求める技能を現場に鍛錬した実習指導者の下、実習・演習等を通して実践的かつ専門的な知識と技術の高い人材育成を目指す。また、必要な日数、時数、学習内容が行われるよう環境を整備するとともに少人数制できめ細かい実習・演習等指導を行う。企業実習(インターンシップ)においては受け入れ先を確保し、実践指導を行うようにする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
情報処理(含、CAD)	日本語ワープロや表計算ソフトを使った基本的な操作方法や、CADシステムを操作しながら学ぶ	株式会社イーエス総合研究所
園芸実習	花卉を中心に生産からガーデニングまで行う また、室内園芸装飾技能士実技についても学習し、園芸装飾技能士試験の合格を目指す	北海道グリーン・サービス協会
造園実習	植物材料実習、庭園施工実習、維持管理実習を行い、また、造園技能士(厚労省)実技試験内容も学習する	一般社団法人札幌造園協会
企業実習(校外実習)	企業等に出向き、職場の実態理解、職業観、勤労精神、責任感等を涵養する	林野庁北海道森林管理局

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教員にある者は、高度な専門能力の修得と資質の向上に寄与することを目的として、札幌工科専門学校「教員研修規程」に則り研修を行う。

研修者は、各自が担当する授業の専門分野に応じ、企業と連携の上で、高度化、多様化する理論及び新技術について研修に努める。また、授業の進め方や授業計画の作成方法などに関する研修も実施し、常に授業方法の改善を工夫する姿勢を教員に徹底させる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長
下原 英一	株式会社イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長
小林 勝美	緑化デザイン株式会社 代表取締役社長
古城 学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長
中田 亜弓	モエレ町内会員

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにて公開する。

URL:<http://www.sapporo-kouka.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページにて公開する。

URL:<http://www.sapporo-kouka.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 造園緑地科) 平成 29 年度入学生										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			教養・体育	スポーツ活動や社会的な意義のある行事を、学生の主体的な計画・行動のもとに実施して、学生相互の交流・親睦を深め、明るい学校生活を築く	1 通 2 通	120	4			○
○			教養一般	「日本史・世界史・地理」「政治・経済・社会」の分野の学習を行う	1 通 2 前	90	3	○		
○			教養数学	「判断推理」「数的推理」「資料解釈」と言われる分野の学習	1 通 2 前	120	4	○		
○			数学 I	専門教科に必要な数学の基礎知識と、この応用・発展問題の解法やさらに進んだ高度な知識を学ぶ	1 通	120	4	○		
○			情報処理	日本語ワープロや表計算ソフトを使った基本的な操作方法や、CADシステムを操作しながら学ぶ	1 後 2 前	120	4	△		○
○			自然再生論	生物多様性の保全、生物調査、自然環境の保全と再生等の知識を学ぶ	1 前	30	1	○		
○			生態学概論	生態系のしくみや動植物の生態、生物と環境の間の相互作用等について解説する	1 前	30	1	○		
○			造園緑地工学概論	環境と緑地を科学的に捉え、さらに田園や住宅地の緑地とそれを構成する生物環境から公園や庭園などの緑地について総合的に学ぶ	1 前	30	1	○		
○			造園緑地設計	自然環境や緑地環境の保全さらに住環境を豊かにする観点から緑地計画について学習する	1 通 2 前	90	3	○		
○			造園緑地材料	植物材料・自然材料・土木材料・建築材料について学習する	1 通	60	2	○		
○			造園緑地施設	主として都市公園において公園の効用を全うするために設置される施設を中心に学ぶ	1 後	30	1	○		
○			植栽施工・管理	緑化を行うための基礎土工・植生工・保護管理工について学習する	1 後 2 前	60	2	○		
○			環境空間デザイン	造園の総合演習として住宅庭園のプランニング、設計を行う	2 通	90	3			○
○			都市計画	都市計画の意義や法制上の仕組みを学ぶほか、景観法、都市緑地法、都市公園法等の関連法についても基本的な知識を身につける	1 後	30	1	○		
○			造園法規	造園・緑地分野で特に重要と思われる法令知識を身につけるとともに法を重んずる精神を培う	2 通	60	2	○		

○			樹木医学概論	樹木の構造・機能および疾病, 疾病の診断・治療, 予防など樹木医学の概論を学習する	1 後 2 後	60	2	○		
○			園芸	花卉の生産からガーデンデザインまで学習する	1 前 2 後	60	2	○		
○	○		園芸実習	花卉を中心に生産からガーデニングまで行い、また、室内園芸装飾技能士実技についても学習し、園芸装飾技能士試験の合格を目指す	1 通 2 通 (2前)	270 (120)	9 (4)			○
○			造園製図	平面図、立面図、透視図、レンダリング等について学ぶ	1 後	60	2			○
○			施工管理	施工計画やその経済性、安全性等の要点を学び、基本的知識を身につける	2 通	60	2	○		
○			植物生理	光合成などの特有の生理機能や特有の形態形成について理解を深め、園芸・造園・林業等の分野での必要な知識を身につける	2 後	30	1	○		
○			植物病理学概論	森林、公園、庭園などの現場でおこる病気の被害を少なくするための基礎的な知識を身につける	2 後	30	1	○		
○			応用昆虫学概論	昆虫に関する基礎的な知識を高め、昆虫類の多様性の維持の重要性を理解するとともに、現場においては虫害を診断し、コントロールできる能力を養う	2 後	30	1	○		
○			測量学	設計・施工に必要な測量理論について学習する	1 通	60	2	○		
○			測量実習	器具の取り扱い、観測方法、結果のまとめのほか、測量作業においては、班員が協力して正確かつ効率的に行えるよう習熟させる	1 通	90	3	△		○
○			バイオ基礎実験	植物の生理・生態をより詳しく理解するため、微生物学の基本や実験器具操作、薬品の取り扱いなど化学実験の基本もあわせて学習する	2 後	60	2	△		○
○			土壌学・同実験	土の力学的、物理的、化学的試験を行い、生育基盤としての土の性質をより深く理解し、植物が健全に生育できるかの診断を行えるようにする	2 後	60	2			○
○	○		造園実習	植物材料実習、庭園施工実習、維持管理実習を行い、また、造園技能士(厚労省)実技試験内容も学習する	1 通 (2前)	210 (120)	7 (4)			○
○			卒業演習	森林演習とバイオ演習を行い、それまでに学習した知識や技術を基に、自ら計画を立て、実施し、その結果について考察を行う	2 後	120	4		○	
○			造林	林業としての森林のみならず、自然環境や都市環境における森林の役割・緑化利用技術についても言及する	1 通 2 前	90	3	○		
○			森林経営	森林の現状や機能、森林を管理・経営する林業についての基礎知識や、森林・林業を取り巻く国際的な最新知識、森林の素晴らしさを修得する	1 後 2 前	60	2	○		
○			森林資源利用	一次産業的な薪炭やシイタケなどの生産、工業的な製材・合板・家具等建築用材から、パルプ・製紙・薬品等化学製品まで学習する	1 後 2 前	60	2	○		
○			森林土木	森林からの木質資源の収穫技術や山地保全技術の基礎知識のほか、森林を活用する際の基本を修得する	1 後 2 前	60	2	○		

○		森林実習	森林へのより深い理解と興味を持たせるため、接ぎ木から森林施業に至る基礎技術を習得するほか、林業実務作業を通じて安全管理の徹底をさせる	1 通 2 前	120	4			○
○		森林気象学	気象学の基礎を学ぶとともに樹木・森林と気象の相互作用を理解し、人間が引き起こした大気汚染と樹木との関係を学習する	1 後	30	1	○		
○		土木施工法	土木施工法は土木技術の応用であるが、講義では、調査・計画・施工方法を対象とする	1 後	60	2	○		
○		土木材料	材料の分類、材料の物理的機械的性質、金属材料、歴青材料、コンクリートの配合設計等を指導する	2 前	30	1	○		
○		土木材料実験	上記の実験を指導する	2 前	30	1			○
○		土質工学	土木構造物を支える地盤の性質について学習する	1 後	30	1	○		
○		土質工学実験	様々な室内土質試験に関して指導する	1 後	30	1			○
○		技能士演習	2・3級造園技能士学科試験と2・3級園芸装飾技能士学科試験対策を行う	1 前	30	1		○	
○		施工管理演習	造園施工管理技士試験対策を行う	2 後	60	2		○	
○		企業実習(校外実習)	企業等に出向き、職場の実態理解、職業観、勤労精神、責任感等を涵養する	1 前	120	4			○
合計				43 科目		3,210 単位時間			